

来週の「売り物記事」はこれ



2017年11月2日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

語り合えぬ悲劇——満蒙開拓で298人が集団自決した村

5日(日)



太平洋戦争中、兵庫県の旧高橋村(現豊岡市)から旧満州(現中国東北部)に派遣された満蒙開拓団「大兵庫開拓団」の384人が、終戦の混乱により現地の川で集団自決を図り、298人が亡くなるという悲劇がありました。石田拓男さん(69)も祖母ら一家4人を失いましたが、開拓団に参加していた生前の父親から話を聞かされたことはなく、自分の家に悲劇が起きていたことを長く知りませんでした。石田さんは今年初めて集団自決の跡地を訪問。そこでたどり着いた、悲劇が語られなかった訳とは——。石田家を軸に、悲劇の裏側を描きます。

筆者は大阪社会部阪神支局の田辺佑介記者です。



原発事故から6年半 福島ルポ

帰郷を決意させた「ある光景」

夕刊特集ワイド 6日(月)



東京電力福島第1原発事故から6年半。地元の富岡町への避難指示が今年4月に一部を除いて解除され、避難していた人たちは帰郷するか、それとも避難先に住み続けるかの判断を迫られています。記者が出会ったひとりの男性は、「ある光景」を目にした瞬間、帰郷を決断します。その「ある光景」とは——。未曾有の災難に人生を曲げられた人々が、ふるさとに抱き続ける複雑、かつ繊細な心情を浮き彫りにするルポルタージュです。

夢を支える人々—平昌五輪企画

スポーツ面 7日(火)から全5回

来年2月の平昌冬季五輪開幕まで1日で残り100日となり、韓国では聖火リレーもスタートしました。各競技のシーズンも始まり、選手たちは五輪でのメダルを目指して最後の追い込みに入ります。そして、その陰には選手の活躍を願い、力強くサポートするスタッフがいます。カーリングのリンク製氷の専門家、スピードスケートでフォームの解析を行う強化部科学班責任者、ジャンプ女子・高梨沙羅選手のトレーナー——メダル獲得に欠かせない「縁の下の力持ち」たちの姿をレポートします。



口腔がん検診を

くらしナビA面9日(木)



口の中の舌などにできる口腔(こうくう)がんはあまりなじみはないがんですが、国内では年間約7400人もの方が亡くなっています。初期は痛みを感じるものがほとんどないうえ、がんの進行が速いため、死亡率が高いのが現状です。早期に発見すれば死亡率が低くなるため、専門家は半年~1年に1度の定期的な口腔がん検診を受信するよう勧めています。

精神障害者の家族支援

くらしナビA面8日(水)

精神障害者の配偶者・パートナーらが集まって話を聞き合う活動が広がりつつあります。「家族もつらいのに医者が診るのは本人だけ。だれにも相談できなかつた」と悩みを抱える配偶者が、同じ境遇の人と話し合い、専門家からアドバイスを受けることで、心の支えを得たり、希望を取り戻したりするケースも出ています。家族訪問サービスも一部で始まっています。



きらり



サラダぼうろ

6日(月)



不妊に悩んだ女性2人が昨年9月、不妊にまつわるメディア運営やアプリ制作を手がける会社「ライフサカス」を創業しました。不妊治療は自由診療で、体外受精が1回100万円を超える場合もあります。治療を必要とする人は多いのに情報は不足しています。思いをともにする2人が、自らの体験も踏まえ、不妊の悩みを解決するためのサービスを起業しました。

変わる医療・介護 2018年度同時報酬改定 医療・福祉面 8日(水)

医療・介護の同時報酬改定と並行し、2018年度に向けては、医療計画・介護保険事業計画の見直しや、地域での暮らしを支えるため全自治体での実施を目指すさまざまな取り組みが行われています。

進ちょく状況は、自治体によってかなり差が出てきています。現場を歩き、6回にわたって、医療・介護の現状と課題を報告します。



「重力波研究 最前線」

科学面 9日(木)



地球から約1億3000万光年離れた高密度の天体「中性子星」が衝突・合体した際に放出した重力波を、米欧の国際研究グループが初めて観測することに成功した。ブラックホールの重力波は米国の望遠鏡がすでにとらえ、今年のノーベル物理学賞が決まったが、重力波研究がさらに進化したことになる。今回の観測で何が解明されたのか。最前線取材した。